



発行日/令和6年11月29日

寒くなると、インフルエンザやウイルス感染症、ウイルス性胃腸炎などの感染症が流行しやすくなります。体調不良のサインがあった場合は、早めにしっかり休ませた方が早い回復につながります。体調が悪い場合や食欲がないときは無理せず、ご家庭でゆっくり過ごしましょう。

## ほけんの予定

12月16日(月) 発育測定 (0.1歳児)

12月17日(火) 発育測定 (2歳以上)

## 11月の感染症報告

りんご病  
アデノウイルス  
インフルエンザ

## 乳幼児突然死症候群 (SIDS) から子どもを守りましょう

乳幼児突然死症候群 (SIDS) とは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児に突然の死をもたらす疾患であり、令和5年には48名の乳幼児が亡くなり、乳児期の死亡原因の上位を占めています。

### 12月以降の冬季に発生する傾向があります

以下の3つのポイントを守ることでSIDSの発症率が低くなるというデータがあります。

- 1歳までは「あおむけ」に寝かせる
- できるだけ母乳で育てる
- たばこはやめる

「あおむけ」で寝かせることは、睡眠中の窒息事故を防ぐうえでも有効です。



## りんご病にご注意ください

新潟市で、りんご病と診断されるお子さんが増えています。感染すると、両ほほに赤い発疹が出ます。ほほに赤い発疹が出る頃には感染力はなく、予防するのが難しい感染症の一つです。大人が感染すると重い合併症を起こしたり、妊婦さんが感染すると、お腹の赤ちゃんに影響が及ぶことがあります。こまめな手洗いで、予防対策を心がけましょう。



やけど注意

### やけどに注意しましょう

床に置くタイプの暖房機や加湿器は、**子どもの手の届かないところに設置するか安全柵で囲みましょう。**

### <やけどをした時の処置>

- シャワーや水道水を患部に直接あてないように
- 容器に溜めた水で10分以上冷やす
- ※流水の場合は勢いを弱め刺激を少なくする

## 眠っている赤ちゃんの窒息を防ぐためには

ベビーベッドに寝かせ、柵は常に上げておく  
頭や身体が挟まれないように注意

赤ちゃんは、日々成長し、できることが増えるため、「動かないだろう」と油断せず、転落しないように、柵は常にあげておきましょう

赤ちゃんが寝る場所には枕やぬいぐるみを置かない  
口や鼻はおおわない

枕やタオル、衣類、よだれかけ、ぬいぐるみなどは近くにおかないようにしましょう

下に敷く布団・マットレスは固めのものを使う  
上にかける布団は使わない

やわらかい敷き布団、マットレス、枕はうつ伏せになった場合に顔が埋まってしまい窒息するリスクがあります

## 保育園でのSIDS予防

子どもたちが眠った後は、首からぶら下げているタイマーで時間をはかり、睡眠チェックを行っています。SIDSのリスクが高い0歳児は5分おきに、1歳児は10分おきにタイマーが鳴ったら、うつ伏せを直し、体に触れて、呼吸確認を行います。ご家庭で、うつぶせ寝の癖がついているお子さんも、園では、仰向けに直し、SIDSの予防に勤めています。



こうして子どもの安全を守っています!!